

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教科：国語 科目：言語文化 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～4組
 教科担当者：（1組：松原・佐藤）（2組：中川・佐藤）（3組：松原・佐藤）（4組：中川・佐藤）（組： ）（組： ）
 使用教科書：（第一学習社 高等学校 新編言語文化 ）

教科 国語 の目標：言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育む。

【知識及び技能】語感を磨き、語彙を豊かにする。

【思考力、判断力、表現力等】作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。

【学びに向かう力、人間性等】作品に書かれている感じ方や考え方から自分自身を見つめ直す手がかりを得る。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
漢字・語句・表現の知識を深め、生活していく上で必要な基本的な知識を身に付ける。	文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などを的確に捉えられる。	課題に対して、主体的に取り組みようとしている。様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり、我が国の伝統と文化について理解を深めたりする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 古文に親しむ『鳩と蟻のこと』 B 古文入門『ねずみの嫁入り』 ・現代まで受け継がれる物語を通して古文への親しみを深める。物語に積極的に親しみ、心情描写の特色を捉える。	・歴史的仮名遣い ・古文について ・基本的な古語の意味 ・文学史的な知識・時代背景 ・内容の解釈	【知識・技能】 ・歴史的仮名遣いに留意し音読できる。基本的な古語の意味を理解している。 【思考・判断・表現】 ・登場人物のものの見方、考え方を捉え内容の解釈を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生徒自身が古典の継承者であることを理解し、学習に取り組んでいる。	○	○	○	10	
	確認テスト①			○	○		1	
	D 小説を読む(一)『水かまきり』 ・現代的小説の展開をとらえ、主人公の心理変化について理解する。現代の作品を通して「生き方」について考えを深める。	・現代的小説の時代背景 ・小説の展開と登場人物の心理変化 ・「生き方」について考えを深める。	【知識・技能】 ・作者や作品の時代背景を理解している。 【思考・判断・表現】 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する方法を学んでいる。 ・小説の展開と主人公の心理変化について理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作者や作品を理解し、人間の生き方を考えることができる。	○	○	○	10	
確認テスト②				○	○		1	
2 学期	E 物語を楽しむ『なよ竹のかぐやひめ』 ・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深める。 F 和歌と俳諧『万葉・古今・新古今』 ・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞のしかたを理解する。時代背景・文化的背景を踏まえて、当時の人々のものの見方・考え方の一端を理解する。	・歴史的仮名遣い ・基本的な古語 ・作品の概要 ・登場人物の特徴・心情を捉える。 ・文学史的な知識 ・貴族の文化や時代背景 ・歴史的仮名遣い ・基本的な古語 ・作品の概要 ・和歌の修辞・古語 ・詠み手の心情・歌意の読み取り ・貴族の文化と時代背景	【知識・技能】 ・作品の概要について理解している。 ・歴史的仮名遣いに留意し音読できる。基本的な古語の意味を理解している。 【思考・判断・表現】 ・登場人物の心情の変化を読み取っている。 ・人物の態度や行為を整理できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで作品の背景となる当時の文化を知り、読解に取り組んでいる。 【知識・技能】 ・作品の概要について理解している。 ・和歌の修辞・古語について理解している。 【思考・判断・表現】 ・詠み手の心情・歌意を正確に読み取る。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで作品の背景となる当時の文化を知り、読解に取り組んでいる。	○	○	○	10	
	確認テスト③				○	○		1
	G 唐詩の世界『春暁』『静夜思』 ・漢詩の表現・技法や基本的な語句を理解して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々がどのような思いを詩に表したかを読み取る。	・漢詩の表現・技法 ・基本的な語句 ・詠み手の心情・歌意の読み取り ・当時の中国文化と時代背景	【知識・技能】 ・漢詩の修辞・基本的な語句を理解している。 【思考・判断・表現】 ・詠み手の心情・歌意を正確に読み取る。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで作品の背景となる当時の文化を知り、読解に取り組んでいる。	○	○	○	25	
確認テスト④				○	○		1	
H 故事成語「矛盾」 ・訓読のまきまりを理解する。漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを	・訓読の決まり ・故事・逸話の内容 ・現代の日本語と漢文の関係 ・時代背景	【知識・技能】 ・訓読の決まりを理解し、音読できる。 【思考・判断・表現】 ・故事・逸話の内容を理解し、現在使われて						

3 学 期	知る。 I 小説を読む(二)『山月記』 ・表現の特徴が作品に及ぼす効果を 考え、人が虎になるという怪異の意 味をふまえて作品の主題を考える。	・近代文学と作者について ・作品・作者の背景 ・語句の意味 ・小説の舞台・展開 ・主人公の心理変化 ・「生き方」について考えを深め る。	いる言葉が漢文に由来することを理解してい る。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・進んで故事成語の特徴を理解し、語彙を豊 かにしようとしている。 【知識・技能】 ・作者や作品の時代背景を理解している。 ・難読語句の意味を理解し、作品理解につ ながる。 【思考・判断・表現】 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考 え方を捉え、内容を解釈する方法を学んでい る。 ・小説の展開と登場人 物の心理変化について理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・登場人物のものの見方、考え方を捉え内容 の解釈を深めている。 ・作者や作品を理解し、人間の生き方を考え ることができる。	○	○	○	10
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計

年間授業計画

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

公民

科目 公共

教科: 公民

科目: 公共

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組~ 4 組

教科担当者: (1組: 中竹) (2組: 中竹) (3組: 中竹) (4組: 中竹)

使用教科書: (教育図書「新訂版 高等学校 公共」)

教科 公民

の目標:

- 【知識及び技能】 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な政治・経済の仕組みを理解する。現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける
- 【思考力、判断力、表現力等】 法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題に対し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する
- 【学びに向かう力、人間性等】 現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする

科目 公共

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な政治・経済の仕組みを理解する 現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける	法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題に対し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する	現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	公共的な空間を作る私たち ～公共と人～ 公共的空間を形成するとはどういうことかについて、先人たちの思想を理解する	・指導事項: 青年期の在り方、資本主義と社会主義、ソーシャルビジネス、自由と正義 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 自分自身が公共的空間の主体となり、よりよい社会の形成に結びつくことについて理解する 【思考・判断・表現】 他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること 【主体的に学習に取り組む態度】 よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養っている	○		○	10
	公共的な空間を作る私たち ～公共と倫理～ 公害問題や地球温暖化問題を通し、我々の社会の抱える課題について考察する	・指導事項: 功利主義と義務論、地球温暖化問題、少子高齢化社会と医療費 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 選択・判断の手がかりとして功利主義、義務論などの考え方について理解する 【思考・判断・表現】 多数派の利益と少数派の犠牲という功利主義の問題点について思考し、表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 自立した主体として公害や地球環境問題、少子高齢化社会の医療費問題のような社会問題にどのように向き合うべきか自覚を深めている	○	○		10
2 学期	現代社会の諸課題～法と政治～ ～民主主義の原理や日本国憲法の原則など、法を中心とした社会の仕組みについて理解する	・指導事項: 日本国憲法、三権分立、民主主義の基本概念 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 日本の法体系、法の分類、法の対象について理解している 【思考・判断・表現】 よりよい社会の実現のために法がどのような機能を果たしているか表現している 【主体的に学習に取り組む態度】 法について関心を持ち、巻末の法文にあたりかしている	○		○	15
	現代社会の諸課題～経済～ 日本経済がたどってきた産業構造の変化と今後の働き方の可能性について学び、自らが働くことの意味や、生活とのバランスについて自覚を持つ	・指導事項: 経済の仕組み、金融 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 日本経済の成長してきた経緯を踏まえ、今後の展望について理解している 【思考・判断・表現】 職業のあり方が産業構造の変化とともに変わること念頭に、自らが就労する近い将来を見据えて、働くことの意味と価値を表現できる 【主体的に学習に取り組む態度】 労働問題や職業選択を通し、経済的主体としての自覚を深めている			○	15
3 学期	選挙と政治参加 民主政治の基礎を支える選挙の仕組みについて学習し、さまざまな制度がなぜ必要とされるのかを理解する	・指導事項: 選挙制度、政党政治 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 民主主義とは、国民に主権があるという基本的な考え方に基づき、これを実現するためにさまざまな選挙制度や法律があることを理解している 【思考・判断・表現】 個々の選挙制度についての利点と難点を、民意をよりよく反映させるという観点から説明することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 選挙に関心をもち、18歳になるときを想定して、主権者としての自覚を深めている	○		○	10
	安全保障と平和 地球規模の課題を通し、これまでの学習を振り返る	・指導事項: 国連、構造的暴力、戦後日本外交 ・教材: 教科書、プリント ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 戦後の日本外交や国連の歴史と、国際貢献の内容・課題点を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 国際社会における日本の国際貢献について、自らの考えを複合的な視点から説明している 【学びに向かう力、人間性等】 平和責任について主体的、具体的に考察する意欲がある			○	10

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

数学 科目 数学演習

教科： 数学

科目： 数学演習

単位数 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： (萩原・池浦・中島)

使用教科書： (東京書籍 数学 I Essence)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
2次関数及び三角比についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	2次関数 ・2次関数とそのグラフ 【知識及び技能】 ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかきなどして多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。	・2次関数とそのグラフの特徴 ・平方完成	【知識及び技能】 ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかきなどして多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	12
	確認テスト①			○	○		1
	2次関数 ・2次関数の最大値・最小値 ・2次関数のグラフと2次不等式 【知識及び技能】 ・2次関数の最大値や最小値を求める。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかきなどして多面的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。	・2次関数の最大値と最小値 ・2次不等式	【知識及び技能】 ・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかきなどして多面的に考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	12
確認テスト②			○	○		1	
2 学 期	三角比 ・鋭角の三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 【知識及び技能】 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	・三角比の意味 ・30°、45°、60°の三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係	【知識及び技能】 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	14
	確認テスト③			○	○		1
	三角比 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積 【知識及び技能】 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積	【知識及び技能】 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	14
確認テスト④			○	○		1	
3 学 期	三角比 ・三角比と座標 ・三角比の相互関係 ・鈍角の三角比と計量 【知識及び技能】 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鈍角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	・三角比の拡張 ・鈍角の三角比の相互関係 ・鈍角三角形での正弦定理・余弦定理・面積	【知識及び技能】 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鈍角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。	○	○	○	13
	確認テスト⑤			○	○		1
合計							70

教科：理科

科目：物理基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：（1組：谷岡）

（2組：谷岡）

（3組：谷岡）

（4組：谷岡）

使用教科書：（物基007-902「高校物理基礎 新訂版」実教出版）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】観察・実験などを行い、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】物質とその変化に主体的に関わり、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物体の運動とさまざまなエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けるとともに、物体の運動とさまざまなエネルギーに関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事象・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	物体の運動とさまざまなエネルギーに関する事象・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動とさまざまなエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1章 物体の運動 1節 運動の表し方 ① 速さとその表し方 ② 等速直線運動 ③ 速さと速度・変位	・直線運動における変位、速度、加速度などの運動の表し方を理解する。	【知識・技能】 合成速度を求めることができる。（確認テスト） 【思考・判断・表現】 速度を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係をとらえることができる。（ワークシート） 【主体的に学習に取り組む態度】 実験を通じて、斜面を滑り降りる台車の加速度を調べようとしている。（ワークシート）	○	○	○	8
	確認テスト①			○	○		1
	1章 物体の運動 1節 運動の表し方 ⑤ 加速度 ⑥ 等加速度直線運動 ⑦ 自由落下運動	・等加速度運動における「時間と変位」「時間と速度」の関係を理解する。 ・空気抵抗がなければ、質量や体積によらず、一様に自由落下運動をすることを理解する。 ・自由落下運動の「時間」「速度」「変位」の関係式を理解する。	【知識・技能】 等加速度運動の式を用いて、時間・変位・速度をそれぞれ求めることができる。（確認テスト） 自由落下運動など、重力による物体の運動について、時間・変位・速度をそれぞれ求めることができる。（確認テスト） 【思考・判断・表現】 v-tグラフを調べることで、運動を正しく表現できる。（ワークシート） 変位や速度、加速度といった、運動の基礎となる量を理解し、それらを組み合わせて運動を物理学的に理解できる。（ワークシート） 加速度を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係をとらえることができる。（ワークシート） 【主体的に学習に取り組む態度】 実験を通じて、斜面をくだる台車の運動を調べようとしている。（ワークシート）	○	○	○	14
1章 物体の運動 2節 力と運動の法則 ⑨ 力 ⑩ 力の合成・分解 ⑪ 力のつりあい ⑫ 作用反作用 ⑬ 慣性の法則	・力とは何か理解する。 ・重さと質量の違いを理解する。 ・固体には弾性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。 ・力の合成、分解、つりあいななど、力の性質を理解する。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・摩擦力、抵抗力、浮力などのさまざまな力について理解する。 ・慣性の法則を理解する。	【知識・技能】 フックの法則を用いて、ばねの変位と弾性力の大きさをそれぞれ求めることができる。（確認テスト） 力の3要素を理解している。（確認テスト） 【思考・判断・表現】 物体が受ける力を「AがBから受ける力」と説明できる。（ワークシート） グラフからばね定数や弾性力を求めることができる。（ワークシート） 【主体的に学習に取り組む態度】 力の性質をもとに、力がつりあうのはどのようなときか調べようとしている。（ワークシート）	○	○	○	8	
	確認テスト②			○	○		1
	1章 物体の運動 2節 力と運動の法則 ⑭ 運動の法則（力と加速度の関係） ⑮ 運動の法則（質量と加速度の関係） ⑯ 運動方程式 ⑰ 摩擦力	・力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 ・運動方程式を立てて、物体の運動のようすを調べる。	【知識・技能】 力と加速度の関係、質量と加速度の関係から、運動方程式を導くことができる。（確認テスト） 運動の原因となる力をさぐる過程を通して運動の法則を理解し、さらに未知の運動を解くことができる。（確認テスト） 【思考・判断・表現】 運動の法則に基づき、さまざまな運動の規則性を見つめることができる。（ワークシート） 運動の法則に基づき、さまざまな運動を理解し、物体の位置や速度を予測できる。（ワークシート） 【主体的に学習に取り組む態度】 実験を通じて、力と加速度、質量と加速度の関係を調べようとしている。（ワークシート）	○	○	○	14
	確認テスト③			○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

教科担当者：（1組：木原）（2組：木原）（3組：木原）（4組：木原）

使用教科書：（化基007-903「高校化学基礎 visual」実教出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】観察・実験などを行い、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、報告書の作成や発表などの探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。

【学びに向かう力、人間性等】物質とその変化に主体的に関わり、主体的に探究しようとする態度を身に付けている。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1章 物質の構成 2節 物質の構成粒子	・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。	【知識・技能】 物質の構成粒子について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 物質の構成についての観察、実験を行い、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現できる。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構成などに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	7
	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合及びパイオン結合でできた物質の性質を理解する。	【知識・技能】 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 イオンやイオン結合の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 イオンやイオン結合などに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	6
	確認テスト①						
	2章 物質と化学結合 2節 共有結合	・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 ・分子からなる物質の性質を理解する。	【知識・技能】 共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。また、分子からなる物質の性質を理解している。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 分子からなる物質の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 共有結合や分子からなる物質などに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	8
	2章 物質と化学結合 3節 金属結合	・金属結合及び金属の性質を理解する。 ・身近な結晶の性質を調べる実験を行い、電子配置や化学結合の種類と関連付けて理解する。	【知識・技能】 金属結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、金属の性質を理解している。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 金属の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 金属に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。（行動観察、提出課題）	○	○	○	8
確認テスト②							
3 章	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式	・物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。	【知識・技能】 物質と化学反応式について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。（行動観察、提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】 物質と化学反応式についての観察、実験を行い、物質の変化における規則性や関係性を見い				

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

教科担当者：（1組：大村・高島・高塚）（2組：大村・高島・高塚）（3組：大村・高島・高塚・山内）（4組：大村・高島・高塚）

使用教科書：（現代高等保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】様々な運動の種類を経験する。運動の効果を理解する。各運動ができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】運動の方法を理解する。効果を理解する。運動の内容を理解して実施できるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】進んで運動を理解し効果を理解する。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の種類が理解できているか。効果が理解できているか。各運動ができるようになったか。	運動の方法が理解できるようになったか。効果が理解できるようになったか。内容を理解して実施できるようになったか。	積極的に運動を理解しようとしているか。積極的に運動を実践しているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元「体づくり運動」 【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組める力を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 自主的に取り組むとともに、互いの助け合いを教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保する態度を養う。	「縄跳び」 ・大縄跳び 「体力テスト」 ・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横跳び ・立ち幅跳び ・ハンドボール投げ ・50m走	【知識・技能】 ・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解している。 ・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付いたり関わったりすることができる。 【思考・判断・表現】 ・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。 ・課題を解決するために仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見つけ、仲間に伝えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。 ・仲間の課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	○	○	○	15
	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	「バレーボール」 「バドミントン」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	30
2 学 期	E 単元「球技」 【知識及び技能】 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	「ハンドボール」 「ベースボールファイブ」 「バスケットボール」 「フットホッケー」 「ダブルダッチ」 「インディアカ」	【知識・技能】 ・技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。 ・「ネット型」：①ボールを相手側のコートの中へ打ち返すことができる。②ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。 ・「ゴール型」：①ボールをコントロールしてパスやシュートができる。②空間を作り出すための動きをすることができる。 ・「ベースボール型」：①タイミングに合わせてボールを捉えることができる。②狙った方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げるることができる。 【思考・判断・表現】 ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。 ・課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見すること。 ・練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保すること。	○	○	○	36
	H 単元「体育理論」 【知識及び技能】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解すること。	「運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害」 「スポーツの技術と技能及びその変化」 ・指導書教材活用	【知識及び技能】 ・運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、体格の巧みさなどの体力との関連で発揮されることを理解すること。				

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

教科担当者：（1組：高島）（2組：高島）（3組：高島）（4組：高島）（組： ）（組： ）

使用教科書：（現代高等保健体育 大修館書店）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】運動の特性に応じた技能等及び健康安全についての理解と技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。	○指導事項 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト ○一人1台端末の活用 ・課題の配信と提出	【知識・技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	確認テスト			○	○		1
2 学期	単元 生涯を通じる健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。	○指導事項 ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト ○一人1台端末の活用 ・課題の配信と提出	【知識・技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	単元 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。	○指導事項 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト ○一人1台端末の活用 ・課題の配信と提出	【知識・技能】 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 【思考・判断・表現】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
確認テスト			○	○		1	
3 学期	単元 健康を支える環境づくり 【知識及び技能】 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 健康を支える環境づくりについての学	○指導事項 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 ○教材 ・『現代高等保健体育』（大修館書店） ・プレゼンテーションソフト ○一人1台端末の活用 ・課題の配信と提出	【知識・技能】 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 【思考・判断・表現】 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	10

<p>習に主体的に取り組もうとする態度を身に付けさせる。</p>						
<p>確認テスト</p>			○	○		<p>1 合計 35</p>

年間授業計画

東京都立中野工科高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

家庭科

科目 家庭基礎

教科: 家庭科

科目: 家庭基礎

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組～ 4 組

教科担当: (1組: 時安・伊藤) (2組: 時安・伊藤) (3組: 成田・高橋) (4組: 時安・高橋)

使用教科書: (新図説 家庭基礎 実教出版)

教科 家庭科

の目標:

- 【知識及び技能】 生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な知識・技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
・家庭科の授業について 8. 消費行動を考える 【知識・技能】 「契約」の基本的な仕組みを理解できる。18歳成人でできることを理解できる。消費生活に関わる法律・制度を理解できる。クレジットなどの消費者信用の仕組みを理解できる。 【思考・判断・表現】 生活情報を収集し、消費行動を思考・判断できる。返済方法など多重債務に陥らないために何が重要か、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境に配慮した消費行動を工夫することができる。支払い方法について計画的に考えることができ、お金の大切さを考えることができ、生活を工夫できる。	・指導内容 契約と主体的な消費行動 多様化する販売方法と問題商法 消費者を守る制度・法律 多様化する支払い方法 消費者の権利と責任 持続可能な社会の構築 持続可能な社会を目指す取り組み ・教材 教科書 ワークシート ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 「契約」の基本的な仕組みを理解できる。18歳成人でできることを理解できる。多様化する販売方法や問題商法を理解することが理解できる。消費生活に関わる法律・制度を理解できる。クレジットなどの消費者信用の仕組みを理解できる。 【思考・判断・表現】 生活情報を収集し、消費行動を思考・判断できる。問題商法など被害を未然に防ぐ判断ができる。返済方法など多重債務に陥らないために何が重要か、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境に配慮した消費行動を工夫することができる。早期に解決するための方法を考え、行動できる。支払い方法について計画的に考えることができ、お金の大切さを考えることができ、生活を工夫できる。	○	○	○	8	
9. 経済的に自立する 【知識及び技能】 ・生活にかかわる収入と支出について理解する。 ・現代の家計の特徴について理解する。 ・家計と国民経済・国際経済の関係を理解し、これからの家計について考えることができる。 ・短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断ができる。 ・将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとする。	・指導内容 日々のお金の流れを把握する 社会と家計の変化 経済の中の家計 人生設計とリスク管理 ・教材 教科書 ワークシート ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 ・生活にかかわる収入と支出について理解している。 ・現代の家計の特徴について理解している。 ・家計と国民経済・国際経済の関係を理解し、これからの家計について考えることができる。 ・短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断ができる。 ・将来のライフイベントとその費用を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとする。	○	○	○	4	
6 衣生活をつくる 【知識・技能】 基礎縫いの縫い方について理解できる。ミシンの使い方について理解できる。 ミシンを使って正確に縫うことができる。 【思考・判断・表現】 基礎縫いを日常生活に実践できる。 効率を考えながら、計画的に製作を進めることができる。 製作したエコバッグを日常生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に実習に取り組むことができる。	・指導内容 被服製作実習 基礎縫い (なみ縫い・まつり縫い・ボタン付け) ミシンの使い方とエコバッグ制作 ・教材 教科書 ワークシート ・ミシン ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 基礎縫いの縫い方について理解できる。 ミシンの使い方について理解できる。 ミシンを使って正確に縫うことができる。 【思考・判断・表現】 基礎縫いを日常生活に実践できる。 効率を考えながら、計画的に製作を進めることができる。 製作したエコバッグを日常生活に生かすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に実習に取り組むことができる。	○	○	○	10	
6 衣生活をつくる 【知識・技能】 人と衣服のかかわりや衣服機能について理解できる。 ライフステージに合った着用について理解する。 衣服がどのような素材をもとにつくられているか理解できる。 【思考・判断・表現】 健康や安全に配慮した衣生活を営むことができる。 被服素材の性能と加工を理解し、着用の工夫ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 快適な衣服とはどのような着心地か考え、実生活に生かそうとする。 確認テスト②	・指導内容 人と衣服のかかわり 健康で安全な衣服 衣服素材の種類と特徴 衣服素材の性能と改善 ・教材 教科書 ワークシート ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 人と衣服のかかわりや衣服機能について理解できる。 ライフステージに合った着用について理解する。 衣服がどのような素材をもとにつくられているか理解できる。 【思考・判断・表現】 健康や安全に配慮した衣生活を営むことができる。 被服素材の性能と加工を理解し、着用の工夫ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 快適な衣服とはどのような着心地か考え、実生活に生かそうとする。	○	○	○	6	
6 衣生活をつくる 【知識・技能】	・指導内容 衣生活の計画と購入	【知識・技能】 実生活において、衣類の入手から処分まで計画的に	○	○	○	1	
2	6 衣生活をつくる 【知識・技能】	・指導内容 衣生活の計画と購入	【知識・技能】 実生活において、衣類の入手から処分まで計画的に				

2 学期	<p>実生活において、衣類の入手から処分まで計画的に営む知識を身につけている。衣類の表示を理解することができる。衣類の製造について、衣類と資源についての関係を理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 衣服の購入の際、表示から必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実験に積極的に参加している。現在の問題点を把握し、自分の行動を見直すことができる。</p>	<p>衣服の管理 家庭での洗濯・保管 持続可能な衣生活をつくる</p> <p>・教材 教科書 ワークシート 一人1台端末の活用 等</p>	<p>営む知識を身につけている。衣類の表示を理解することができる。衣類の製造について、衣類と資源についての関係を理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 衣服の購入の際、表示から必要な情報を読み取ることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実験に積極的に参加している。現在の問題点を把握し、自分の行動を見直すことができる。</p>	○	○	○	8
	<p>2子どもとかかわる</p> <p>【知識・技能】 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけことができる。家庭保育・集団保育の重要性、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 体験実習を通して、妊婦、子どもの立場を考えることができる。子どもの発達に対し、どのようなかわりができるか、考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の子育ての環境や地域社会、国の支援策、課題などについて情報を集め、考えることができる。実習に積極的に参加している。</p>	<p>・指導内容 子どもの誕生 からだの発達 運動機能の発達と知的発達 かかわりの中の発達 子どもの生活習慣と健康 子どもの食生活・衣生活 子どもの遊び 親になることを考えよう すこやかに育つ環境と支援 子どもを守る法律・制度</p> <p>・教材 教科書 ワークシート 一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につけことができる。家庭保育・集団保育の重要性、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 体験実習を通して、妊婦、子どもの立場を考えることができる。子どもの発達に対し、どのようなかわりができるか、考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の子育ての環境や地域社会、国の支援策、課題などについて情報を集め、考えることができる。実習に積極的に参加している。</p>	○	○	○	10
	<p>5食生活をつくる</p> <p>【知識・技能】 現代の食生活の傾向を理解し、健康な食生活の必要性を考慮することができる。五大栄養素からだの繋がりに関して考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって知識を深めようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 調理実習に積極的に参加している。自分の食生活をはじめ、現代の食生活の問題点を考えることができる。</p>	<p>・指導内容 私たちの食生活と健康 5大栄養素 炭水化物 脂質 たんぱく質 ミネラル ビタミン その他の食品 食品の選択と表示 食品の衛生 食事摂取基準 食品群別摂取量のめやす 調理の基本 調理実習</p> <p>・教材 教科書 ワークシート 一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 現代の食生活の傾向を理解し、健康な食生活の必要性を考慮することができる。五大栄養素からだの繋がりに関して考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって知識を深めようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 調理実習に積極的に参加している。自分の食生活をはじめ、現代の食生活の問題点を考えることができる。</p>	○	○	○	12
	確認テスト④			○	○		1
3 学期	<p>7住生活をつくる</p> <p>【知識・技能】 住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解できる。平面図が読み取ることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 住まいにおいて、バリアの必要なところや平面図を読み取ることによって、適切なところに家具などを置くなど、工夫をすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の住まいの課題や自然災害についての防災、減災対策について考えることができる。</p>	<p>・指導内容 人と住まいのかかわり 平面図から見た住空間 健康に配慮した住まい 安全な住まい これからの住まい</p> <p>・教材 教科書 ワークシート 一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解できる。平面図が読み取ることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 住まいにおいて、バリアの必要なところや平面図を読み取ることによって、適切なところに家具などを置くなど、工夫をすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 現代の住まいの課題や自然災害についての防災、減災対策について考えることができる。</p>	○	○	○	6
	<p>1自分らしい生き方と家族 3高齢者とかかわる 4社会とかかわる</p> <p>【知識・技能】 各ライフステージごとの発達段階について理解することができる。青年期の生き方について考え、4つの自立を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自分自身の生活を振り返り、自立するために何が必要かを理解し、将来について考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分の生活設計を積極的に考えることができる。高齢者と積極的にかかわりを持つことの意義を理解できる。</p>	<p>・指導内容 生涯発達する人生 これからの人生をデザインする 青年期を生きる 生活を支える労働 高齢社会に生きる 高齢者を知る 社会保障制度-公助- 社会の一員としての私たちの役割 -互助・共助-</p> <p>・教材 教科書 ワークシート 一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 各ライフステージごとの発達段階について理解することができる。青年期の生き方について考え、4つの自立を理解することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自分自身の生活を振り返り、自立するために何が必要かを理解し、将来について考えることができる。高齢者について、自分と結びつけながら考えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分の生活設計を積極的に考えることができる。高齢者と積極的にかかわりを持つことの意義を理解できる。</p>	○	○	○	3
	確認テスト⑤			○	○		1
						合計	
						70	

年間授業計画

中野工科高等学校 令和8年度（2学年用）

教科 工業

科目 実習Ⅰ

教科：工業

科目：実習Ⅰ

単位数：4 単位

対象学年組：第 2 学年 1.2組【基礎】

教科担当者：鈴木 安松 佐々木 谷内 酒井 吉村

使用教科書：工業化学実習（実教出版） 自校オリジナルテキスト

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

教科 工業

の目標：

- (1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【知識及び技能】食品工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 実習Ⅰ

の目標：

食品工業に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	食品工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	食品工業に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

製造

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
オリエンテーション 実習の目的を理解し、各分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身につけさせる	実習の目的 実習班およびスケジュールの確認 実習におけるルール ファイルの作成 報告書（レポート）について	【知識・技能】 実習の目的をよく理解させ、ものづくりが工業技術の中で果たしている役割についての知識と技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、行動できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 実習の目的を理解し、各分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実験・実習に主体的に取り組む態度を身につけている。	○	○	○	4
1 学期 食品製造実習 食品分析実習 各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う ※製造・分析の2分野を6班編成でローテーションで実施	【製造1】 ・食品衛生について ・二重窯 【製造2】 熟成(パウンドケーキ) 【製造3】 発酵(テーブルロール) 【分析1】 ・機器分析(SEM) 【分析2】 ・食品化学分析の基礎 【微生物】 ・顕微鏡の使い方 ・培地の調整	【知識・技能】 作業の基本操作についての正しい知識を持ち、実習内法をよく理解している。 【思考・判断・表現】 作業の基本操作について、適切に思考・判断し、その方法についての確に表現できる技量を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作業の基本操作について興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組む態度を身につけている。 ※レポート・作品・授業態度を複合的に各観点に照らし合わせ評価する	○	○	○	44
2 学期 食品製造実習 食品分析実習 各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う	【製造1】 煮熟(ミートソース) 【製造2】 アプリコットジャム 【製造3】 山崎製パン実習 【分析1】 ・食品サンプル実習 【分析2】 ・塩酸標準溶液の標定 【微生物】 ・落下菌① 【製造1】 巻きじめ・殺菌(シロップ缶) 【製造2】 ・粉碎・煮熟(ピーナッツクリーム) 【製造3】 山崎製パン実習 【分析1】 ・食品サンプル実習 【分析2】 ・キレート滴定 【微生物】 ・落下菌②常在菌① 【製造1】 ゲル化(カップゼリー) 【製造2】 ・粉碎・煮熟(ピーナッツクリーム) 【製造3】 山崎製パン実習 【分析1】 ・食品サンプル実習 【分析2】 ・水の硬度測定 【微生物】 ・常在菌②	【知識・技能】 作業の基本操作についての正しい知識を持ち、実習内法をよく理解している。 【思考・判断・表現】 作業の基本操作について、適切に思考・判断し、その方法についての確に表現できる技量を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 作業の基本操作について興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組む態度を身につけている。	○	○	○	60
食品製造実習	【製造1】 ゲル化(カップゼリー)	【知識・技能】				

3 学 期	<p>食品分析実習</p> <p>各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け、食品工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う</p>	<p>【製造2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粉砕・煮熟(ピーナッツクリーム) <p>【製造3】 山崎製パン実習</p> <p>【分析1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品サンプル実習 <p>【分析2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の硬度測定 <p>【微生物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常在菌② 	<p>作業の基本操作についての正しい知識を持ち、実省内法をよく理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>作業の基本操作について、適切に思考・判断し、その方法についての的確に表現できる技量を身につけている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>作業の基本操作について興味・関心を持ち、実習に意欲的に取り組む態度を身につけている。</p>	○	○	○	32
						合計	
							140

年間授業計画

中野工科 高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 食品工業

教科：工業 科目：食品工業 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 2組

教科担当者：（1組：海老澤）（2組：佐々木）（2組：富永）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（工業化学1(実教出版)）

教科 工業 の目標：食品工業の技術に興味をもち、食品と化学の関係について意欲的に学ぶ。

【知識及び技能】 食品化学に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 食品と工業との関わりを理解し、化学的に考察できる。

【学びに向かう力、人間性等】 食品工業について意欲的に学ぶ態度を身に付ける。

科目 食品工業 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品化学に関する現象や事象について、基礎的・基本的な概念や、原理・法則を理解している。身近にある食品について化学的に探求し、食品化学の意義や役割を理解している。	食品化学や人間生活に関する事象に課題をみだし、それらの現象や事象を論理的に考え、総合的に判断し、その成果を的確に表現できる。食品と工業との関わりを適切に考察する能力を身につけている。	食品の性質や変化、化学の基礎理論や化学工業に関する諸問題に関心をもち、その改善と向上をめざして積極的に取り組む意欲をもっている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・人の暮らしと化学 ・物質の構成について学ぶ。	・人々の暮らしを通じて化学がどのように影響を与えているのか、理解する。 ・物体と物質、純物質と混合物、混合物の分離について理解する。	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	・元素と原子・分子・イオンについて学ぶ。 ・元素単体と化合物原子・分子・イオンについて学ぶ。	1 元素 A 化合物と元素 B 元素 2 単体と化合物 3 原子・分子・イオン	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	確認テスト			○	○		1
	・水の性質について学ぶ。 ・水溶液の濃度の計算方法を学ぶ ・水溶液の性質について学ぶ。	・水分子の水素結合と極性 ・質量パーセント濃度 ・溶解度 ・電離 ・沸点上昇と凝固点降下 ・浸透圧 ・コロイド	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	12
	化学結合について学ぶ。	・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
確認テスト			○	○		1	
2 学 期	化学式と物質の量について学ぶ。	・原子量と分子量 ・物質量とモル濃度	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	気体の性質について学ぶ。	・各種気体の性質	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	確認テスト			○	○		1
	気体の体積と圧力・温度について学ぶ。	・ボイル・シャルルの法則 ・状態方程式	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	12
	酸と塩基について学ぶ。	・水素イオン濃度とpH ・中和と塩	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	15
確認テスト			○	○		1	
3 学 期	元素の性質について学ぶ。	・周期表 ・典型元素 ・遷移元素	・小テスト ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	化学反応と熱について学ぶ。	・燃焼熱	・小テスト				

		<ul style="list-style-type: none"> ・発熱反応と吸熱反応 ・化学結合とエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ※その他、出欠状況や授業態度、課題やプリント、ノート等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	確認テスト			○	○		1
							合計
							105

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業

科目 微生物基礎

教科：工業

科目：微生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 2組

教科担当者：（1組：酒井） （2組：酒井） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書：（食品微生物：実教出版（株））

教科 工業

の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】食品製造に必要な基礎的な知識と心構えを身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】食品製造と人間生活との関わりを理解し、豊かな食生活の提供について考察できる

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 微生物基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身につけ、生活に役立てることができる。	食品製造に関する知識から課題を発見し、食品工業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できる力を自ら養うことができる。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、食品工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 人間生活と微生物 1 微生物を学ぶにあたって 【知識及び技能】 ○生命の誕生と進化の過程について理解する。 ○微生物が学問として成立するまでの流れについて理解する。 【思考・判断・表現等】 ○学名の成り立ちについて説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な生物や微生物学での歴史的人物について調査し、話し合う。	○生命の誕生について無機物からどのように生物が誕生し陸へと進出してきたかを理解させる。 ○微生物の発見から分離、培養までの流れをどのように発展してきたかを理解させる。 ○学名の表し方やその成り立ちについて理解し、説明できているようにする。	【知識・技能】 ○生命の誕生と進化の過程について理解している。 ○微生物が学問として成立するまでの流れについて理解している。 【思考・判断・表現】 ○学名の成り立ちについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら身近な生物や微生物学での歴史的人物について調査し、話し合っている。	○	○	○	10
	授業内テスト①			○	○		1
	第2章 微生物の種類と特徴 1 微生物の種類 【知識及び技能】 ○細菌の形態とその大きさについて理解する。 ○細菌の種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○細菌の学名からその形態や特徴を推定し、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な細菌について調査し、その応用例について話し合う。	○細菌の形態とその大きさについて理解させる。 ○細菌の種類とその特徴について代表的な細菌名とともに理解させる。 ○細菌の特徴や性質の応用例について身近な製品等を例に理解させる。	【知識・技能】 ○細菌の形態とその大きさについて理解している。 ○細菌の種類とその特徴について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○細菌の学名からその形態や特徴を推定し、説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な細菌について調査し、その応用例について話し合っている。	○	○	○	10
授業内テスト②				○	○		1
2 学期	第2章 微生物の種類と特徴 1 微生物の種類 【知識及び技能】 ○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解する。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○酵母、カビ、ウイルスの学名からその形態や特徴を推定し、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な酵母、カビ、ウイルスについて調査し、その応用例について話し合う。	○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解させる。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について代表的な酵母、カビ、ウイルス名とともに理解させる。 ○酵母、カビ、ウイルスの特徴や性質の応用例について身近な製品等を例に理解させる。	【知識・技能】 ○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解している。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○酵母、カビ、ウイルスの学名からその形態や特徴を推定し、説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な酵母、カビ、ウイルスについて調査し、その応用例について話し合っている。	○	○	○	11
	第2章 微生物の種類と特徴 2 微生物の生育と環境要因 【知識及び技能】 ○微生物の構成成分とその補給源となる栄養素がどのようなものがあるかを理解する。 ○微生物が増殖、生育するために必要な環境条件、適した環境条件について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○具体的な事例、環境でどのような微生物が生育、増殖するかを考え、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に微生物に必要な環境について調査し、その応用例について話し合う。	○微生物の構成成分について理解させる。 ○微生物が必要とする栄養素について理解させる。 ○微生物が生育、増殖する条件について具体例を用いながら理解させる。	【知識・技能】 ○微生物の構成成分とその補給源となる栄養素について理解している。 ○微生物が増殖、生育するために必要な環境条件、適した環境条件について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○具体的な事例、環境でどのような微生物が生育、増殖するかを考え、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら微生物に必要な環境を調べその利用について考えることができる。	○	○	○	11
	授業内テスト③				○	○	
	第3章 微生物の代謝と酵素 1 微生物の代謝とその利用 【知識及び技能】	○代謝の種類について理解させる。	【知識・技能】 ○代謝の種類について理解している。				

	<p>【知識及び技能】</p> <p>○微生物の生体内で行われている化学反応（代謝）について理解する。</p> <p>○微生物が生存するために必要なエネルギーの獲得方法について体内でどのようなことが起きているかを理解する。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○代謝を効率行うために代謝生成物によるフィードバックが行われ、その調整機構について説明できるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○自主的に微生物の発酵について調査し、その応用例について話し合う。</p>	<p>○解糖系や発酵によるエネルギー獲得のメカニズムについて理解させる。</p> <p>○効率の良い代謝を行うためのフィードバック調整について理解させ、説明できるようにさせる。</p>	<p>○代謝によるエネルギー獲得のメカニズムについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○フィードバック調整について説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○自ら微生物の発酵について調べ、その応用について考えることができる。</p>	○	○	○	10
	授業内テスト④			○	○		1
3 学 期	<p>第3章 微生物の代謝と酵素</p> <p>2 微生物の酵素</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○酵素の基質特異性や熱活性について理解する。</p> <p>○効率的な生体内の反応である触媒反応について理解する。</p> <p>○酵素の種類やその応用方法について代表的な酵素名とともに理解する。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○酵素について最適な状態での製造利用するための工夫について考え、説明できるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○自主的に酵素について調査し、その応用例について話し合う。</p>	<p>○酵素の性質や種類について理解させる。</p> <p>○温度やpHなどの環境によりどのように働きが変わるかを理解させる。</p> <p>○実際にどのようなものが工業的に利用されているかを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>○酵素の基質特異性や熱活性について理解している。</p> <p>○触媒反応について理解している。</p> <p>○酵素の種類やその応用方法について代表的な酵素名とともに理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○酵素について最適な状態での製造利用するための工夫について考え、説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○自ら酵素について調べ、その利用について考えることができる。</p>	○	○	○	13
	授業内テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 食品製造技術 I

教科：工業

科目：食品製造技術 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

教科担当者：（1組：佐々木） （2組：鈴木） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書：（食品製造：実教出版(株)）

教科 工業 の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】食品製造に必要な基礎的な知識と心構えを身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】食品製造と人間生活との関わりを理解し、豊かな食生活の提供について考察できる

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 食品製造技術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付け、生活に役立てることができる。	食品製造に関する知識から課題を発見し、食品工業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できる力を自ら養うことができる。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、食品工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	第1章 食品製造の意義と動向 1 食品製造の意義	○食品の持つ機能を理解させる。 ○食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解させる。 ○食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	2 食品産業の現状と動向	○食品産業の分類を理解させる。 ○食品産業の発展を理解させる。 ○食品産業が常に解決し続けなければならない問題を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	第2章 食品製造の基礎 1 食品の分類	○食品の分類には農産物・畜産物・水産物のほか、食品成分表や加工法による分類があることを理解させる。 ○食品加工技術の進歩により、組み立て食品が誕生し、栄養学および医学の進展に伴い保健機能食品が誕生していることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	2 身近な食品の科学	○食品に含まれる栄養素の基本的事項を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
2 学 期	2 身近な食品の科学(続き)	○食品に含まれる物質の特徴や生物学的な作用により、様々な加工食品が製造されていることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	第3章 食品の変質と貯蔵 1 食品の変質とその原因	○食品を変質させる要因は複数の要因があり、それらの要因が複雑に絡んでいることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	2 食品の貯蔵法	○食品の貯蔵法が、様々な方法を用いて水分、温度、空気組成等の諸条件を変化させることで食品の変質要因を少なくしていることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
第4章 食品加工と食品衛生 1 食品と食品衛生	○食品衛生が、食品の安全性や品質を確保するとともに、人の生命と健康を守ることを目的としていることを理解させる。 ○飲食による健康被害の種類を知るとともに、これを防ぐための行政機関、組織及び関係法令の概略を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6	
定期考査			○	○		1	
4 食品添加物	○食品添加物の分類、用途及び種	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小					

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（デザイン） 科目 デザイン応用

教科：工業（デザイン）

科目：デザイン応用

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年

3・4組 食品デザイン系列生徒

教科担当者：（内田

）

使用教科書：（デザイン実践

）

教科 工業（デザイン）

の目標：

【知識及び技能】様々な材料や表現手段から、デザイン力を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてイメージし、カタチにすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】作品の完成度を高めるため、最後まで課題に取り組む。

科目 デザイン応用

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。 ④小テスト	①各素材や表現技法を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 単元：デッサン	【画材の扱い方】 ・画材の種類や用途について 【表現技法】 ・モノのカタチを素早くとらえるための表現技法 ・透視図法（パース） ・形態表現 ・質感表現	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、紙への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	24
2 学期 単元；模刻	【画材・道具の扱い方】 ・画材・道具の種類や用途について 【表現技法】 ・スケッチ ・透明水彩による表現 ・立体造形 ・アクリルガッシュによる着色	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、支持体への表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	26
3 学期 単元；白黒反転デッサン	【画材・道具の扱い方】 ・画材種類や用途について 【表現技法】 ・光や陰影の表現について ・実社会（飲食店等）での応用例	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・ものの見方、表し方を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養	○	○	○	20

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科：工業 科目：食品製造学A

教科：工業 科目：食品製造学A 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 3組～4組
 教科担当者：（3組：古川）（4組：中辻）（組：）（組：）（組：）（組：）
 使用教科書：（食品製造：実教出版(株)）

教科 工業 の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む
 【知識及び技能】食品製造に必要な基礎的な知識と心構えを身に付ける
 【思考力、判断力、表現力等】食品製造と人間生活との関わりを理解し、豊かな食生活の提供について考察できる
 【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 食品製造学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身に付け、生活に役立てることができる。	食品製造に関する知識から課題を発見し、食品工業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できる力を自ら養うことができる。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、食品工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 食品製造の意義と動向 1 食品製造の意義	○食品の持つ機能を理解させる。 ○食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解させる。 ○食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	2 食品産業の現状と動向	○食品産業の分類を理解させる。 ○食品産業の発展を理解させる。 ○食品産業が常に解決し続けなければならない問題を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	第2章 食品製造の基礎 1 食品の分類	○食品の分類には農産物・畜産物・水産物のほか、食品成分表や加工法による分類があることを理解させる。 ○食品加工技術の進歩により、組み立て食品が誕生し、栄養学および医学の進展に伴い保健機能食品が誕生したことを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	確認テスト			○	○		1
	2 身近な食品の科学	○食品に含まれる栄養素の基本的事項を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	2 身近な食品の科学(続き)	○食品に含まれる物質の特徴や生物学的な作用により、様々な加工食品が製造されていることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
2 学期	第3章 食品の変質と貯蔵 1 食品の変質とその原因	○食品を変質させる要因は複数の要因があり、それらの要因が複雑に絡んでいることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	2 食品の貯蔵法	○食品の貯蔵法が、様々な方法を用いて水分、温度、空気組成等の諸条件を変化させることで食品の変質要因を少なくしていることを理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	9
	第4章 食品加工と食品衛生 1 食品と食品衛生	○食品衛生が、食品の安全性や品質を確保するとともに、人の生命と健康を守ることを目的としていることを理解させる。 ○飲食による健康被害の種類を知るとともに、これを防ぐための行政機関、組織及び関係法令の概略を理解させる。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 食品に関するテーマを決めて、グループで調べ学習し、ワード及びスライドで発表し評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6
	確認テスト			○	○		1
	4 食品添加物	○食品添加物の分類、用途及び種	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小				

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業 科目 食品学

教科： 工業 科目： 食品学 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（3,4組 井手）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（2024オールガイド食品成分表(実況出版)）

教科 工業 の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技術】栄養素の機能や加工・調理方法に関する基礎的な知識と技術を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】栄養成分の機能や性質を健康への影響を理解し、化学的に考察できる

【学びに向かう力、人間性等】栄養成分の性質と加工について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 食品学 の目標：食品の栄養成分と加工方法について、化学的に思考する能力を身に付ける

【知識及び技術】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品の栄養素がもつ機能や加工・調理方法に関する基礎的な知識と技術を身に付け、その知識と技術を調理方法・加工技術を考察するために活用できている	栄養成分の機能や健康への影響を化学的に判断することができ、栄養成分の性質に応じた摂取方法や加工方法を理論的に説明する能力を身に付けている。	栄養成分の性質と機能を理解するとともに、調理方法や加工技術について意欲的に学ぼうとする積極的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	5大栄養素について	栄養に関する基礎事項を学ぶ。 五大栄養素の名称 熱量素、構成素、調整素 等	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストや演習プリントで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	4
	糖質（炭水化物）	人体の構造や消化機能・生理作用を食物関連中心に扱う 糖質の種類、構造、加工変性、生理作用、代謝について、食品への利用を学ぶ 糖質のまとめ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	食物繊維	食物繊維の種類、構造、加工変性、生理作用、代謝について、食品への利用、まとめ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	脂質	脂肪酸の種類、構造、加工変性を学ぶ 脂質の生理作用、代謝について、食品への利用、構造、食品への利用、まとめ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
2 学期	タンパク質	タンパク質の種類、構造、加工変性、生理作用、代謝について、食品への利用、アレルギーなどのまとめ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	ビタミン	ビタミン種類、含まれる食品、構造の理解 調理師や栄養士等の資格取得も考慮する。	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	ビタミン	脂質の生理作用、代謝について、食品への利用、構造、食品への利用、まとめ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	無機質	無機質の種類、含む食品、人体へ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小				

3 学 期		の働き、食品での利用方法を理解する	テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	6	
	栄養のまとめ	無機質の種類、含む食品、人体への働き、食品での利用方法を理解する 病人食や妊婦職などライフステージと栄養を学ぶ	受講しての理解度を単元毎にノート提出や小テストで評価 関連ビデオなど見せて鑑賞内容に関する小テストで評価 出欠状況や授業態度、提出物等をもとに総合的に判断する。	○	○	○	8	
	定期考査			○	○		1	
							合計	
								70

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業（デザイン） 科目 工業デザイン

教科：工業（デザイン） 科目：工業デザイン

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3組～4組

教科担当者：（内田・中辻）

使用教科書：（デザイン実践）

教科 工業（デザイン） の目標：

- 【知識及び技能】様々な材料や表現手段を体験し、その特徴を理解する。
- 【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてデザインを考え、形にすることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】手を動かすこと、デザインすることに興味を持つ。

科目 工業デザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。 ④小テスト	①各素材やアプリケーションソフトの特徴を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
1 学 期	単元：平面構成	【デザイン製図基礎】 ・製図用具の使い方について ・線の練習 【色彩】 ・色相環 ・トーン、グラデーションについて ・トレース、配色計画 【画材の扱い方】 ・画材の種類や用途について 【表現技法】 ・アクリルガッシュによる着色	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・材料や道具を正しく大切に扱う方法や色彩に関する知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・製図用具を用いて、正確に線や図形を描くことができる。 ・配色計画に基づきながら、基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する態度を養う。	○	○	○	35
	2 学 期	単元：立体構成	【Adobe Illustrator】 ・基本動作の学習 ・アイデア出し ・データの出力（プリントアウト）について ・課題説明 ・プレゼンボードの作成 ・レイアウトについて	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・PCや周辺機器の正しい使用方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 ・MacPC、周辺機器、Adobe Illustratorの特徴を理解する。 ・基本条件に合った作品を制作し、丁寧に仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良いデザインを模索する態度を養う。	○	○	○
3 学 期							

年間授業計画

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業

科目 微生物基礎

教科：工業

科目：微生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3組～ 4組

教科担当者：（3,4組：山崎）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（食品微生物：実教出版（株））

教科 工業

の目標：食品工業の技術に興味をもち、意欲的に授業に取り組む

【知識及び技能】食品製造に必要な基礎的な知識と心構えを身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】食品製造と人間生活との関わりを理解し、豊かな食生活の提供について考察できる

【学びに向かう力、人間性等】食品製造について意欲的に学ぶ態度を身に付ける

科目 微生物基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識を身につけ、生活に役立てることができる。	食品製造に関する知識から課題を発見し、食品工業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できる力を自ら養うことができる。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるように自ら学び、食品工業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 人間生活と微生物 1 微生物を学ぶにあたって 【知識及び技能】 ○生命の誕生と進化の過程について理解する。 ○微生物が学問として成立するまでの流れについて理解する。 【思考・判断・表現等】 ○学名の成り立ちについて説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な生物や微生物学での歴史的人物について調査し、話し合う。	○生命の誕生について無機物からどのように生物が誕生し陸へと進出してきたかを理解させる。 ○微生物の発見から分離、培養までの流れをどのように発展してきたかを理解させる。 ○学名の表し方やその成り立ちについて理解し、説明できているようにする。	【知識・技能】 ○生命の誕生と進化の過程について理解している。 ○微生物が学問として成立するまでの流れについて理解している。 【思考・判断・表現】 ○学名の成り立ちについて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら身近な生物や微生物学での歴史的人物について調査し、話し合っている。				10
	確認テスト①			○	○		1
	第2章 微生物の種類と特徴 1 微生物の種類 【知識及び技能】 ○細菌の形態とその大きさについて理解する。 ○細菌の種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○細菌の学名からその形態や特徴を推定し、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な細菌について調査し、その応用例について話し合う。	○細菌の形態とその大きさについて理解させる。 ○細菌の種類とその特徴について代表的な細菌名とともに理解させる。 ○細菌の特徴や性質の応用例について身近な製品等を例に理解させる。	【知識・技能】 ○細菌の形態とその大きさについて理解している。 ○細菌の種類とその特徴について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○細菌の学名からその形態や特徴を推定し、説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な細菌について調査し、その応用例について話し合っている。				10
確認テスト②				○	○		1
2 学期	第2章 微生物の種類と特徴 1 微生物の種類 【知識及び技能】 ○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解する。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○酵母、カビ、ウイルスの学名からその形態や特徴を推定し、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な酵母、カビ、ウイルスについて調査し、その応用例について話し合う。	○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解させる。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について代表的な酵母、カビ、ウイルス名とともに理解させる。 ○酵母、カビ、ウイルスの特徴や性質の応用例について身近な製品等を例に理解させる。	【知識・技能】 ○酵母、カビ、ウイルスの形態とその大きさについて理解している。 ○酵母、カビ、ウイルスの種類とその特徴について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○酵母、カビ、ウイルスの学名からその形態や特徴を推定し、説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に身近な酵母、カビ、ウイルスについて調査し、その応用例について話し合っている。				11
	第2章 微生物の種類と特徴 2 微生物の生育と環境要因 【知識及び技能】 ○微生物の構成成分とその補給源となる栄養素がどのようなものがあるかを理解する。 ○微生物が増殖、生育するために必要な環境条件、適した環境条件について理解する。 【思考・判断・表現等】 ○具体的な事例、環境でどのような微生物が生育、増殖するかを考え、説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○自主的に微生物に必要な環境について調査し、その応用例について話し合う。	○微生物の構成成分について理解させる。 ○微生物が必要とする栄養素について理解させる。 ○微生物が生育、増殖する条件について具体例を用いながら理解させる。	【知識・技能】 ○微生物の構成成分とその補給源となる栄養素について理解している。 ○微生物が増殖、生育するために必要な環境条件、適した環境条件について理解している。 【思考・判断・表現等】 ○具体的な事例、環境でどのような微生物が生育、増殖するかを考え、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自ら微生物に必要な環境を調べその利用について考えることができる。				11
	確認テスト③				○	○	
2 学期	第3章 微生物の代謝と酵素 1 微生物の代謝とその利用 【知識及び技能】	○代謝の種類について理解させる。	【知識・技能】 ○代謝の種類について理解している。				

	<p>【知識及び技能】</p> <p>○微生物の生体内で行われている化学反応（代謝）について理解する。</p> <p>○微生物が生存するために必要なエネルギーの獲得方法について体内でどのようなことが起きているかを理解する。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○代謝を効率行うために代謝生成物によるフィードバックが行われ、その調整機構について説明できるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○自主的に微生物の発酵について調査し、その応用例について話し合う。</p>	<p>○解糖系や発酵によるエネルギー獲得のメカニズムについて理解させる。</p> <p>○効率の良い代謝を行うためのフィードバック調整について理解させ、説明できるようにさせる。</p>	<p>○代謝によるエネルギー獲得のメカニズムについて理解している。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○フィードバック調整について説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○自ら微生物の発酵について調べ、その応用について考えることができる。</p>	○	○	○	12
	確認テスト④			○	○		1
3 学 期	<p>第3章 微生物の代謝と酵素</p> <p>2 微生物の酵素</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>○酵素の基質特異性や熱活性について理解する。</p> <p>○効率的な生体内の反応である触媒反応について理解する。</p> <p>○酵素の種類やその応用方法について代表的な酵素名とともに理解する。</p> <p>【思考・判断・表現等】</p> <p>○酵素について最適な状態での製造利用するための工夫について考え、説明できるようになる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○自主的に酵素について調査し、その応用例について話し合う。</p>	<p>○酵素の性質や種類について理解させる。</p> <p>○温度やpHなどの環境によりどのように働きが変わるかを理解させる。</p> <p>○実際にどのようなものが工業的に利用されているかを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>○酵素の基質特異性や熱活性について理解している。</p> <p>○触媒反応について理解している。</p> <p>○酵素の種類やその応用方法について代表的な酵素名とともに理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○酵素について最適な状態での製造利用するための工夫について考え、説明できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○自ら酵素について調べ、その利用について考えることができる。</p>	○	○	○	11
	確認テスト⑤			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業 科目 化学と安全

教科：工業

科目：化学と安全

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3組～4組

教科担当者：（3組：中辻）（4組：中辻）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（工業化学実習1（実教出版））

教科 工業

の目標：科学技術や工業化学に関する基礎的な知識を習得させ、実際に活用する能力を育てる。

【知識及び技能】工業化学に関する基礎的・基本的な事項についての知識と技術を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】工業化学が人間生活に関する現象や事象を論理的に考え、判断して表現できること。

【学びに向かう力、人間性等】工業化学に関する諸問題の改善と向上を目指し、積極的に取り組む意欲と実践的な態度を身につける。

科目 化学と安全 の目標：工業の見方・考え方を働かせ、工業化学の危険を理解し安全について知識・技術を身につける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
危険物の性状に関する知識と技能を習得させる。危険物の安全な取り扱いに関する知識と技能を習得させる。	化学物質に関する情報を的確に分析し、その危険性や環境影響を判断した上で、適切な対策や安全管理方法を自ら考え、適切に実践できる能力を養う。	化学物質を取り扱う事業や研究に従事する技術者として、化学物質を安全に取り扱うための基礎知識や心構え、倫理観を本講座の学習により養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	危険物取扱者制度	1. 危険物取扱者制度 危険物取扱者の種類と取扱範囲 安全のアプローチ	【知識・技能】 提出物で基本的な制度の理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 社会における化学の危険と安全を考える。考えを記入し提出物で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席、授業態度、学習のスケジュールを記載した提出物を評価する。	○	○	○	5
	燃焼に関する基礎①	1. 燃焼理論 2. 燃焼の三要素 3. 燃焼の形態と難易 4. 燃焼範囲（引火と発火）	【知識・技能】 プリント等の提出物で燃焼に関する知識の理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 理論を生活や職業に広げて考え、提出物で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	5
	確認テスト①			○	○		1
	危険物に関する法令①	1. 法令における危険物の定義 2. 指定数量 3. 製造所等の区分 4. 危険物取扱者の権限、免状	【知識・技能】 プリント等の提出物で危険物に関する法令の知識の理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 法令に則った判断ができるか、提出物で判断する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	6
	燃焼及び消火に関する基礎①	1. 消火の理論 2. 消火剤の種類 3. 消火器の種類とその特徴	【知識・技能】 プリント等の提出物で燃焼及び消火に関する知識の理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 燃焼及び消火の知識で予防について考え、提出物を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	6
確認テスト②			○	○		1	
2 学期	燃焼に関する基礎②	1. 引火性液体の燃焼 2. 引火性液体の危険を判断する指標	【知識・技能】 プリント等の提出物で理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 ケーススタディ。危険を判断する力について提出物を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。				6
	危険物に関する法令②	1. 製造所等の区分と設置・変更の手続き 2. 施設の保安管理 3. 義務違反に対する措置	【知識・技能】 プリント等の提出物で理解度を判断する。 【思考・判断・表現】 ケーススタディ。法令を判断する力について提出物を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 出席状況や授業態度、課題やプリント提出状況を評価する。	○	○	○	7
	確認テスト③			○	○		1
	燃焼及び消火に関する基礎②	1. 消火の原理 2. 火災の分類と適応	【知識・技能】 プリント等の提出物で理解度を判断する。				

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 工業（デザイン） 科目 材料研究

教科：工業（デザイン） 科目：材料研究 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3・4組 サイエンスコース生徒 選択者

教科担当者：（松尾・関谷）

使用教科書：（デザイン実践）

教科 工業（デザイン） の目標：

【知識及び技能】様々な材料や表現手段を体験し、その特徴を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】学んだことをふまえてデザインを考え、形にすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】手を動かすこと、デザインすることに興味を持つ。

科目 材料研究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①本時の学習内容をプリントに記入することができる。 ②道具を正しく使用することができる。 ③作品を完成させる。	①各素材や表現技法を理解することができる。 ②基本条件をふまえたデザインを描くことができる。 ③作品を丁寧に仕上げるすることができる。	①説明を集中して聞くことができる。 ②教員と対話し、より良いデザインを模索しようとしている。 ③制作に集中して取り組んでいる。 ④片付け掃除に取り組んでいる。 ⑤反省・感想をプリントに記入することができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	単元：材料と適正	【材料について】 ・紙 ・プラスチック ・金属 ・布帛	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・それぞれの材料の特性を理解する。 【思考・判断・表現】 ・各素材の特性に基づき、製品に適した材料を選択できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する姿勢を養う。				
	単元：食に関するデザイン	【デザイン検討】 ・3Dソフト基本操作 ・データ作成 ・出力 ・発表	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・3Dソフトの基本操作を理解する。 【思考・判断・表現】 ・3Dプリンタで出力し、実際の製造において実現可能かを評価、表現する能力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教員と対話し、より良い作品に仕上げるために模索する姿勢を養う。	○	○	○	40
2 学期	単元：デザイン概論	・デザイン概論 ・デザインの領域（クラフト・ヴィジュアル・アーキテクチャー） ・さまざまなデザインについて	出席時数、提出物、小テスト、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・古代から現代まで人類の生み出してきた道具や芸術品、生活様式などから、デザインの変遷を学ぼうとしている。 ・デザインに関する基礎知識を身に着ける。 【思考・判断・表現】 ・生活及び福祉を取り巻くデザインが、どのような歴史を経て現在のスタイルに至ったのかを学ぼうとしている。 ・調査内容を相手にわかりやすく伝える。 ・指示された条件に沿って、適切なデザインを仕上げる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・分野を超えてデザイン・インテリアに関する基礎的・基本的な時代の流れを理解しようとしている。				
3 学期		・デザイン史 ・美術的な活動について ・今後のデザインの活動		○	○	○	30
		・まとめ					

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

工業 科目 課題研究

教科：工業

科目：課題研究

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年

3・4組

サイエンスコース生徒

教科担当者：（安松・酒井・鈴木・谷内）

使用教科書：（ ）

教科 工業

の目標：

【知識及び技能】課題研究に関心を持ち、課題解決に向けた努力を主体的に積極的に参加している。

【思考力、判断力、表現力等】計画を見直しながら情報を判断し、課題解決の過程を分かりやすく表現できる。

【学びに向かう力、人間性等】積極的に計画・実行・振り返りに取り組む。

科目 課題研究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
①工業に関する知識や技術を活用して、課題の解決に取り組むことができる。 ②実習や発表を通じて、考えたことを整理し、わかりやすく伝えることができる。 ③課題に主体的・協働的に取り組み、成果につなげている。	①自らの計画について、常に検証し、よりよい方法を探る努力をしている。 ②収集した情報を正しく精査し判断材料としている。 ③実習日誌に課題解決の内容を分かりやすくまとめている。	①自ら立てた計画に責任を持ち、継続的に取り組んでいる。 ②教員との対話を通して考えを深め、課題解決に生かしている。 ③仲間と協力しながら、主体的に活動できる。 ④振り返りを重ね、自分の成長や課題を見つめ直すことができる。 ⑤課題解決に向けて、困難に直面しても前向きに取り組んでいる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元：探求の基礎	【見つける・調べる・伝える力】 ・課題設定と計画の立案 ・情報の収集と整理 ・実践・検証活動 ・振り返りと課題の再構築 ・教員や仲間との対話と協働 ・成果の整理と表現	出席時数、提出物、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・課題に関する基本的な知識を理解し、適切に活用できている。 【思考・判断・表現】 ・課題の進行に応じて計画や方法を見直すなど、柔軟に考えている。 ・収集した情報を整理・分析し、自分の考えに結びつけている。 ・活動の成果をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・探求活動に積極的に参加し、自分の学びに責任を持って取り組んでいる。 ・教員や仲間と対話しながら、活動をよりよくしようとしている。 ・困難な場面でもあきらめずに取り組み、改善を重ねている。				
				○	○	○	12
2 学 期	単元：探求の発展的な学び	【見つけ、深め、伝え合う】 ・問いを深める ・方法を工夫する ・資料と記録を読み解く ・協働的な対話で考えを深め、自分の意見を構築する ・成果を整理して発信する ・フィードバックを取り入れる	出席時数、提出物、授業態度、プレゼンテーション等で総合的に判断する。 【知識・技能】 ・課題に応じた専門的な知識や技術を選び、適切に活用できている。 【思考・判断・表現】 ・活動の中で課題を再構成し、解決に向けた多面的な視点を持っている。 ・情報や結果を根拠として考察し、自分の意見を形成している。 ・発表やレポートにおいて論理的に整理し、説得力のある表現ができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習の目的を自覚し、自ら計画的に活動を進めている。 ・教員や外部の助言を柔軟に受け入れ、改善に生かしている。 ・課題に対して粘り強く取り組み、探究を深めようとしている。	○	○	○	15
3 学 期				○	○	○	8

